

### Ⅲ 地区研究会報告

#### 地区研究会（葉山町）【書面開催】報告概要

- 1 テーマ 生涯学習活動に関する調査研究から見えたこと～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み～
- 2 目的 県内の各市町村の社会教育委員が一堂に会し、それぞれの地域での取組や社会教育の今日的課題について研究協議・情報交換することにより、資質の向上を図る。
- 3 主催 神奈川県社会教育委員連絡協議会
- 4 主管 葉山町社会教育委員の会議
- 5 内容（書面開催のため概要のみ）

##### （1）葉山町の紹介

葉山町は、三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市、東部、南部は横須賀市に接し、西は相模湾に面しています。面積は17.04平方キロメートルで東西にやや長く、西半部は、市街化が進んでいます。人口は約3万3千人で、東京から50キロ圏内に位置しており、住宅と観光の町として発展しています。



##### （2）アトラクション団体の紹介

葉山町に残る伝統芸能の団体（葉山御前太鼓保存会・葉山町木遣保存会）を紹介しています。

##### （3）人権講話「車椅子の世界」

葉山町職員として勤務しながら、東京2020パラリンピックへの出場を目指す小曾根 亮氏による人権講話です。

##### （4）活動紹介「生涯学習活動に関する調査研究から見えたこと～読み聞かせ活動の充実に向けた取り組み～」

葉山町社会教育委員の会議では、「生涯学習に関する町民ニーズ調査」と「葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査」の2つの調査結果および委員が所属する読み聞かせサークルから寄せられた要望等から、葉山町の読み聞かせ活動に着目し研究に取り組むことにしました。

活動紹介1では、上記2つの調査についてご紹介いたします。活動紹介2では、葉山町社会教育委員の会議が、葉山町の読み聞かせ活動について把握した現状・課題・課題解決の取り組みをご紹介いたします。

##### <活動紹介1「生涯学習活動に関する調査研究について」>

###### ○生涯学習に関する町民ニーズ調査について

葉山町社会教育委員の会議では、町民の要望や学習活動の実態を把握し、生涯学習社会の推進に役立てることを目的に平成14年度と平成27年度の2回にわたり「生涯学習に関する町民ニーズ調査」を行いました。2回の調査を比較すると、個

人の趣味や教養を高める活動から、地域交流や読み聞かせ等の社会貢献的な活動が増えてきたことがわかりました。

#### ○葉山町子ども読書活動推進計画策定に関わるアンケート調査について

策定当初から葉山町社会教育委員の会議が携わってきた「葉山町子ども読書活動推進計画」の基礎資料として行った2回のアンケートを比較すると、読み聞かせを行う保護者の割合が増加しており、読み聞かせへの意識が高まっていることを把握することができました。

これらのことから、葉山町社会教育委員の会議では町内の読み聞かせ活動に着目し、子どもたちの読書活動推進のためには、幼い頃から読書に親しむ機会や環境が必要であり、そのためには読み聞かせ活動のさらなる充実や定着化、きっかけ作りが必要と考えました。

### <活動紹介2「葉山町の読み聞かせ活動について」>

#### ○現状・課題の把握

葉山町では、すべての小学校で保護者による読み聞かせサークルの活動が行われており、各サークルが試行錯誤し、工夫を凝らした活動を行っています。日々の読み聞かせ活動は、子どもたちにとって読書の習慣をつける効果があると考えられ、平成30年度全国学力・学習状況調査において葉山町の小学生は読書や新聞を読む習慣が全国と比較して高いことがわかっています。



各読み聞かせサークルは独自のルールで活動しているため、葉山町社会教育委員の会議では、抱えている課題等の把握のため、全ての読み聞かせサークルに参加を募り意見交換会を開催しました。課題の把握だけでなく、情報共有も行い、町内の読み聞かせサークル全体のレベルアップを図ることも狙いとしました。

#### ○課題解決の取り組み

葉山町社会教育委員の会議では、読み聞かせサークルの活動の一層の充実に向けて図書館との連携の必要性を認識し、様々な取り組みを行いました。

図書館職員対象に行っていた読み聞かせの研修会に、読み聞かせサークルのメンバーに参加してもらったり、図書館展示コーナーにて読み聞かせサークルの紹介コーナーを作成したりしました。これらの取り組みによって、研修の機会がないという課題の解決や、読み聞かせサークルへの加入促進ができたと考えられます。

## 6 まとめ

今回の発表では、過去に葉山町社会教育委員の会議が行った調査等から、葉山町の読み聞かせ活動に着目し、課題を把握し取り組んできたことを紹介させていただきました。学校における読み聞かせ時間の確保が困難になっている中、小さいころから読書に親しむことによって与える影響や効果は、子どもだけでなく大人にとっても計り知れないものがあり、さらなる推進が必要であると再認識することができました。

神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会〈葉山町会場〉については書面開催となりました。冊子は各市町村に配付しておりますので、ぜひご一読ください。

## 地区研究会（山北町）【書面開催】報告概要

- 1 テーマ 少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える  
－共和地区の取り組みをとおしての考察－
- 2 目的 県内の社会教育委員が一堂に会し、それぞれの地域における取り組みや今日的課題について研究協議・情報交換することにより、資質の向上を図る。ただし、新型コロナウイルス緊急事態宣言が再発令されたため、書面開催とする。
- 3 主催 神奈川県社会教育委員連絡協議会
- 4 主管 山北町社会教育委員会議
- 5 概要

山北町は神奈川県の北西部に位置し、県内では横浜市・相模原市に次ぐ面積を有しているが、その約90%は山地となっている。平成の初期には1万4千人ほどの人口があったが、現在では1万人を割り込む程に減少し、過疎化が進んでいる地域でもある。

同時に少子高齢化も進み、以前は町内に4校あった小学校が既に2校となり、今年度末（令和3年3月）には更に1校閉校となるため、1校のみとなる。また中学校も3校あったものが、既に1校に統廃合されている。

こういった状況下において、町としては子どものいる世帯向けの集合住宅の建設や、空き家対策を含めた「お試し住宅」の試行等、様々な定住対策に取り組んでおり、最近では、世帯数は若干増加しているものの、人口が減少するという状態が続いている。

山北町社会教育委員会議としては、「少子化・高齢化・過疎化」という三重苦とも言える状況の中で、いかに社会教育（生涯学習）を進展させていくかが大きな課題となってきた。山北町では「子どもから高齢者まで、生涯にわたり学び、生きがいのある充実した人生をおくることが生涯学習社会の実現」という基本目標を掲げた『山北町生涯学習推進プラン』（平成30年3月策定）等に基づき、生涯学習・生涯スポーツ・文化活動・更には青少年の健全育成や人権尊重を重視した生涯学習の充実を図る取組等を実践し、それなりの効果を上げつつある。

しかしながら、昨今の地域社会の状況は山北町だけの問題ではなく、全国的に見ても特に地方においては想定以上の少子化・高齢化・過疎化という荒波により、地域そのものの存続問題や不活性化による疲弊等が大きな課題となっているのも事実である。

私たち社会教育委員会議では、こういった状況を鑑み「少子高齢化時代における社会教育のあり方を考える」という研究課題を設定し、地域の活性化も含めて検討することとなった。その参考例として採り上げたのが共和地区である。山北町には行政単位として6つの地区があるが、共和地区はその中でも規模が一番小さく、中山間地に70世帯ほどが点在し、過疎化・高齢化が急速に進む地域で、高齢化率も54%に達している。

しかしながら、この共和地区は、町内の他地区に比べ様々な組織・団体等が縦横に関わり合いながら、地域の活性化や住民の交流、更には移住者を積極的に受け入れる等の対策を講じており、先駆的な取組を従来から行っている地域でもある。

そこで社会教育委員会議としては、この共和地区の取組を調査・検討することにより、今後の社会教育のあり方や方策を考えることとし、令和元年度・2年度の2年間で研究することとなった。

### ○令和元年度の取り組み －共和地区の活動実態等の調査－

調査等を始めるにあたり、共和地区の連合自治会や諸団体のリーダーと話し合いの機会を設け、今回の研究の主旨の説明や協力依頼を行った。その際には、共和地区の実情や今までの多様な取組の経過、そして将来に向けての展望等の説明があり、地域独自の課題等

を共有することができた。

まず初年度は、私たち社会教育委員が地域の諸行事に参加し、地域の人々と交流を深めながら様々な課題等を把握することとなった。

- (1) 第9回共和地区夏祭り 令和元年 8月11日(日) 5名参加
- (2) 共和地区エコの日 令和元年 9月22日(日) 5名参加
- (3) サンマのタベ 令和元年10月19日(日) 4名参加
- (4) 第37回ゲートボール大会 令和元年11月10日(日) 7名参加

#### ○令和2年度の取り組み –アンケートによる共和地区住民の意識調査と考察–

当初の予定どおり令和2年4月中旬に中学生以上の全住民を対象としてアンケート調査を実施した。【回収率 78.8% (回答者123名/調査対象者156名)】

また、概ね10年以内に共和地区に移住してきた方13名と移住に関わった方7名にはそれぞれ別のアンケート調査を実施した。

#### ○アンケート調査から読み取れる住民の意識

- (1) 「共に生きる」そして「地域で生きる」  
自然環境や社会環境を受け入れつつ、住民の半数が「住みやすい」と回答。
- (2) 過疎化・高齢化との対峙  
地域で福祉バスを運行する等、主体的・意欲的な活動が多く見られる。
- (3) 移住者を交えての地域活性化  
積極的に移住者を受け入れて、新たなコミュニティを創りつつある。
- (4) 精神的な土台となる「お峯入り」の継承  
南北朝時代の発祥とされる国指定重要無形民俗文化財「山北のお峯入り」が、世代を超えて継承されている。

#### ○これからの時代の社会教育のあり方

- (1) 地域共同体意識の醸成  
地方における都市化現象が一段と進み、コミュニティとしての機能が果たせない状況ともなっている。「共生・教育」を含め住民の意識改革が必要となってくる。
- (2) 地域を活かす(地域の宝)  
それぞれの地域の良さを再確認し、地域の宝を共有する活動が求められる。
- (3) 核となる活動の継続  
どこの地域でも、共に参加し喜び合えるような行事があると思う。時代の変化に合わせてながらも継承していくことが必要ではないだろうか。
- (4) 人口減少や高齢化への対応  
地域での対応には限界があるが、行政と協力して取り組み、社会教育の充実を図っていかなければならない。
- (5) 行政のバックアップ  
多様な取組を実践するには、人的・物的な支援が必要である。

#### ○その他

令和3年2月19日(金)に山北町で開催する予定の地区研究会ではあったが、新型コロナウイルスの感染拡大により書面開催となってしまった。多くの社会教育委員の方々に山北町へ来ていただき、自然豊かな山北町の様子を少しでも感じ取っていただければと考えていたのに残念な結果となってしまったが、情勢が落ち着いたらご来町いただきたい。